

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
47	川崎市立 長沢中学校	杉山 達郎

学校教育目標	今年度の重点目標
1. 自分を見つめよう 2. 心身を鍛えよう 3. 規律を守り、責任を果たそう 4. 創造的な精神をみがこう	I 確かな学力が身につく学習活動の推進 1. 学習規律の確立 2. 教師の授業力向上 3. GIGA効果的な活用 II 安全で安心できる学校づくりの推進 4. 支援教育の推進 5. 信頼関係の構築 6. 居場所となる学校・学級づくり III 豊かな心づくりの推進 7. キャリア在り方教育の推進 8. 共生＊教育プログラムの活用 9. 人権、思いやりの心の育成 IV 地域・保護者との連携推進・学習環境の整備 10. 地域、保護者と共に取り組む教育活動 11. 教育環境の整備12. 健康、安全教育の推進

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1	学習規律の確立	<ul style="list-style-type: none"> ◎学校評価アンケートから学校生活に必要なルールやマナーを守って生活している生徒が多い。 ◎教科部会において、地区研究授業、指導主事の話など必ず共有することが徹底できた。 ◎学習規律、学級規律をしっかり意識させることができたと感じている教員が多い。 ●教科担任制で基本的な学習規律がばらばらであるため、学校として検討し 	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳、学級活動等の話し合い活動における共通ルールを構築する。 ・生徒の学ぶ意欲を高める指導と評価の一体化を図る。→校内外研修の充実。
2	教師の授業力向上	<ul style="list-style-type: none"> ◎学校評価アンケートから授業が楽しくてわかりやすいと感じている生徒が昨年より11%増えた。 ◎学校評価アンケートから主体的に学習に取り組んでいると答えた生徒が多い。 ◎校内研修テーマを設定し、年3回指導主事を招いて研修したことはとても実りあるものだった。 ●生徒が主体となって取り組む授業力の向上に日々努める。 ※生徒が楽しい、わかることのできる魅力ある授業を展開できるように 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科総会、地区研究授業での他校の実践を参考に、教科部会や、学年会等で確実に情報を共有する。 ・教員同士が気軽に授業を見合える雰囲気づくりをつくる。 ・ICTの活用や生徒の発想や考えを基にした授業展開を工夫する。そのためには多くの授業を見ることが必要である。 ・研修テーマを決めて全員で取り組んでいくことが効果的であると考える。
3	GIGA端末の効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> ◎学校評価アンケートから授業中GIGA端末を有効に活用していると感じている生徒が多い。 ◎欠席者がオンライン配信授業に参加することができた。 ◎他者との意見交換や考えを共有することができた。 ●教員全員が効果的に活用できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・GIGA構想ステップ3の実現に向けて、各教科等の地区研究会の際に手法を取得し活用スキルを向上させる。 ・一人教科担当への支援の充実として指導主事との連携を図る。
4	支援教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ◎学習室担当者会議等で情報を共有し、支援の改善、適切な対応をできるようにしている。 ●学習室のより効果的な活用の仕方を検討する。 ●支援を必要とする生徒への積極的なアプローチと保護者との共通理解。 ●不登校支援の充実を図る。どこも繋がっていない生徒への適切な支援。 	<ul style="list-style-type: none"> ・COを中心に、学習室のより効果的な運営を検討していく。学習室担当者会議での議案としてあげる。 ・通常級の中にいる生徒の困り感を積極的に見取り、保護者と共に適切な支援の在り方を検討していく。 ・不登校生徒に対して、適切な学習支援、登校支援の在り方を検討していく。また、外部機関との連携を図る。
5	信頼関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> ◎年度初めの担任と生徒の教育相談を行い、話しやすい関係づくりに努めた。 ◎学校評価アンケートから困ったときに先生に相談する生徒が増えた。 ●相談時間の確保 ●勤務時間外の対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・常に「寄り添う」「聴く」「受け止める」「一緒に考える」を胸に丁寧に対応していくことを心がける ・教職員から積極的に話しかけ、常に話しやすい関係づくりに努める。 ・教育相談期間ではなくても、毎日が教育相談という気持ちで接していく。
6	居場所となる学校・学級づくり	<ul style="list-style-type: none"> ◎学校評価アンケートからクラスに役割があり責任を果たしている生徒が多い。 ◎学校評価アンケートからクラスに安心できる友達がいって助け合って生活している生徒がとて多い。 ◎学校評価アンケートから学級活動や諸行事で友達とより良い関係をつくるようにしている生徒がとて多い。 ◎生徒主体で校則について検討することができた。 ●学級に居場所を感じることができない生徒への対応。 	<ul style="list-style-type: none"> ・担任が一人ひとりを大切にしたい所属感を味わわせる学級経営を行う。 ・効果測定を学級経営にいかす。 ・全職員が生徒一人ひとりに達成感を持たせるよう、主体的な活動を支えることを再度確認する。 ・生徒主体の特別活動を実践していく。 ・COと連携を図り、不登校生徒の早期対応を学年主任会議、学年会等で検討していく。

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
7	キャリア・在り方教育の推進 体験的な活動を通して社会的な自立に向け、必要な能力と態度を育成する。 ・SDGsの取組・職業講話・職場体験・進路学習	◎学校評価アンケートからルール、マナーを守って生活している生徒がとても多い。 ◎学校評価アンケートからあいさつをするように心がけている生徒がとても多い。 ・SDGsの視点で1、2年生は体験活動ができた。	・より効果的な体験学習を企画、運営していく。 ・学年主任が連携を図り、次の学年へと繋がる体験学習にしていく。 ・キャリアノートを連携のツールとして、保護者と共通理解を図り指導を行っていく。
8	共生＊共育プログラムの活用 共生＊共育プログラム推進校として、効果測定による生徒の姿容を的確に捉え、学級経営の改善を図るとともに共感的な人間関係の構築を目指す。	◎学校評価アンケートから他者に認められ様々な活動に自信を持って取り組んでいる生徒が多い。 ◎効果測定結果の見取りを学級経営にどうにかするか職員研修を行うことができた。 ●ケース検討の時間の確保	・年間7時間の共生＊共育プログラムと年3回の効果測定の時間の確保が難しくなっているので、工夫して実施していく。 ・学年会で分析結果について協議する時間を確保していく。
9	人権・思いやりの心の育成 人権尊重養育を大切に、いじめのない、SOSを出しやすい学校風土を構築する。 ・子どもの権利条約を活用した人権尊重教育 ・読書活動を通して豊かな心を育む。	◎学校評価アンケートから人権を尊重し暴力やいじめをしないと答えている生徒がとて多い。 ◎読書を通して様々な考え方を知ったり感動を味わうことができる生徒が昨年度より増えた。 ●SNSによるトラブルが毎年おこる。	・日常から生徒の変化を積極的に察知し、学校として迅速に対応する。 ・記録をとること(フォーマットをつくり正確に)と経過を追うことを指導の基本として、組織で対応していく。 ・SNSによるトラブルは、保護者と連携を図り、場合によっては関係機関と連携して支え、指導していく。
10	地域・保護者と共に取組む教育活動の推進 ・PTAや地域の行事に協働して取り組む。 ・学校教育推進会議、こども文化センターとの連携。 ・地域教育会議の行事に協働して取り組む。 ・積極的に学校の取組を発信し、家庭、地域、小学校等との連携を促進することで理解と協力を得ながら教育活動を展開する。 ・学校だより・学級だより・ホームページ・メール配信 ・オープンスクール・各種行事参観・各種説明会・たぬきフェスティバル・たぬきチャンネル・地域教育会議等	◎PTAの在り方について共通理解を図り、様々な活動に協働することができた。 ◎地域教育会議の行事である「たぬきフェスティバル」に生徒、教職員が全面的に協力して取り組むことができた。 ●小さいお子さんがいる教職員の協力体制。 ◎学校評価アンケートから地域の人と繋がっていてお世話になっていると感じている生徒が昨年度より増えた。	・学校と保護者・地域が協働してこどもを支えること的主旨に基づき、全教職員が日頃から良好な人間関係づくりに努める。 ・たぬきフェスティバルの日を課業日に行うことにより、教職員、生徒の協力体制ができたと感じた。 ・働き方改革の視点から来年度より、土曜日に開催していたPTA役員会議を平日に開催する。 ・ペーパーレス化の伴い、学校だより、保健だより等、ミマモルメで配信したが、どれだけの方に読んでいただいているか心配である。
11	教育環境の整備 ・安心して入学できるように小中連携を図り、中1ギャップの防止に努める。 ・生徒の安全を保障するため、防犯や経年劣化に伴う不具合等の早期改善に努める。	◎小中連携事業として、夏季休業中に小中教職員の交流を行った。また、中学校体験も再開し、入学前に中学校生活を知ることができたと思われる。 ◎学校評価アンケートから学校は安全で安心して学びやすい環境であると感じている生徒がとて多い。 ●予算の関係ですぐに修繕できない箇所がある。	・よりよい中学校体験ができるように検討をしていく。 ・教育委員会と連携を図り、早期に営繕していただけるように努める。
12	健康・安全教育の推進 ・諸活動でのけが等の対応を養護教諭、保護者と連携を図りスムーズに行う。 ・生徒にとって充実した活動となるよう保護者と共通理解を図った部活動の運営。 ・震災、家裁等の避難訓練の実施 ・SNSを含む情報モラルの指導	◎長沢中学区は安心して生活できる環境であると感じている生徒がとて多い。 ◎避難訓練で地区別班での会議、下校訓練を行い、防災、防犯の視点で地域を知ることを実施した。 ◎教育委員会と連携を図り、危険個所の営繕を迅速に行うことができた。 ●部活動の顧問と保護者の連携。 ●SNSの適切な使い方については課題である。	・けがが起った際の迅速な対応と連絡。迅速な災害報告書の提出。家庭への連絡。 ・ガイドラインを遵守した部活動の運営。 ・部活動顧問と保護者の共通理解を図りながらの運営を行うため、年数回各都ごとに保護者懇談会を実施する。 ・SNSに関しては、保護者と連携を図りトラブル防止に努めていく。

学校関係者の評価	学校運営のまとめ
<p>【良い点】</p> <p>◎あいさつやルールマナーを守る規律正しい生徒が多い。◎こども文化センターもこどもの居場所として活用され、使い方も特に問題はない。◎たぬきフェスティバルの実施日を課業日にし、生徒、教員の協力体制が構築できたこと。◎生徒はボロシャツの導入により、過ごしやすくなった。◎学校やPTAの情報をホームページやミマモルメを活用して発信することができた。◎小中連携事業、職場体験など復活して行うことができた。◎生徒会本部役員を中心として、生徒主体の校則の見直しを図ることができた。</p> <p>【課題を要する点】</p> <p>●PTAの組織改革に伴い、役員、各委員会のなり手が減少している。●部活動地域移行に伴い検討を進める。 ※来年度より始める学校運営協議会(コミュニティスクール)を教育委員会の方に来校していただき説明をしていただいた。</p>	<p>今年度はコロナの5類化に伴い、学校生活や諸行事がコロナ前の状況に戻りつつある年となった。ただコロナ前に戻すのではなく、「生徒のための学校生活」「生徒の思いがこもった行事」にするチャンスと捉え、生徒と一緒に考えて企画運営していくように教職員に話をした。それと同時に、教職員の働き方改革の視点も視野に入れ学校運営を行ってきた。今年度は「主体的に学習に取り組む態度」の評価の在り方を校内研修テーマとして年3回の校内研究授業を実施し、指導主事を招いて指導をいただいた。教職員共通のテーマを設定し取り組んでいくことは大変有意義で効果を得られたと感じている。学校経営の2本の柱「一人ひとりを大切にしたい学校」「安全で安心できる学校」の実現に向けて取組成果と課題を認識して次年度も学校運営をしていきたい。</p> <p>■年度初めの教育相談→新しい担任と話しやすい関係づくりに努めることを目標に今年度より実施。継続していきたい。</p> <p>■支援教育の推進→田園調布大学との連携拡大を図る。部活動外部指導者、教育ボランティアの拡大。</p> <p>■不登校生徒への支援→校内のCOやSCを含め、外部機関等とこどもも繋がっていない生徒への適切な対応が課題であると感じている。</p> <p>■学習会の実施→テスト前、長期休業中等、学習支援を行っていく。</p> <p>■人権尊重教育を推進し、互いに認め合い、支え合える関係をつくり、安心して学校生活を送れるようにする。</p>